

もみじ

-広島県山岳・スポーツクライミング連盟会報-



一般社団法人 広島県山岳・スポーツクライミング連盟

〒733-0011 広島市西区横川町2丁目4-17

電話・FAX (082) 296-5597

E-Mail : hgakuren@lime.ocn.ne.jp

URL : <http://hiroshima-gakuren.or.jp>

郵便振替口座 01380-6-37958

題字デザイン 今村みすほ

編集 西部伸也

本号内容

1. 県民ハイキング (3/15 黒滝山・白滝山) 報告
2. 登山教室 (1・2年 3/21~22 比婆山) 報告
3. 連載『幸せの国ブータン王国滞在記 もろもろ』④
4. 第28回比婆山国際スカイランの中止について
5. 岳連短信 (寄贈御礼、4~5月の行事案内、訃報)

1. 県民ハイキング報告

(広島パイオニアクラブ 小田 里子)

【コースタイム】

9:30~10:00JR 忠海駅 (受付・開会式) —10:30 内堀公園 (ストレッチ) —10:38 地蔵院 (歴史解説) —11:20 黒滝山広場 (集合写真・歴史解説・ワンポイント・昼食) 12:10~12:30—黒滝山—13:40 龍泉寺—13:50 白滝山—14:50 内堀公園 (解散式・ストレッチ) 15:05 解散

【参加者】一般 5、連盟会員 45 (内担当会 14)、計 50

今回の県民ハイキングは、新型コロナウイルス騒ぎの最中、感染拡大懸念を受け運営会議にて、密閉空間でのイベントでないこと、不特定多数の集まりでないこと、至近距離での濃厚接触などの可能性が低いこと等考慮して問題なしとの結論に至り、予定通り行うこととなった。

豊田理事長の歴史解説によると、忠海は平忠盛に平定され、北側の浦を「忠海」、南の大三島を「盛」と名付けたのが由来。また忠海は瀬戸内海が航路だった時代、三次からの年貢米の積出港でもあった。「黒滝、白滝」と名付けられた記録は無く、皆でその名称の根拠を探るハイキングとなった。

登るごとに瀬戸内海の景色が変わり、乃木將軍の腰掛岩、幸福の鳥居くぐり、平山郁夫のスケッチ場等が

登山道脇にあり、眼下には手袋のアトム、ジャムのアヲハタ、エデンの海、兎の大久野島等の眺めが飽きさせない。

黒滝山広場で、記念写真、歴史解説、ワンポイント、昼食タイム。ワンポイントでは遭難対策委員の堀内さんから、「近頃増えている山での事故を受け、『こんな筈では無かった』事故が多い。実践を重ね、謙虚に山に取り組んで欲しい」の呼び掛けがあった。

早くもツツジやミモザが咲いていて、世間では新型コロナウイルスでの自肃ムードではあるが、山ではいつも以上に多くのハイカーに出会った。白滝山の大岩に刻まれた摩崖仏、その大岩からの眺望は東西南北遠くまで望まれ、なるほど歴史の要所であった事が納得できる。

広島市方面からの参加者には交通にご不便をお掛け致しましたが、景色でお返し出来たのではないかとお許し頂きたい。ご参加ありがとうございました。

以下の写真は順番に、黒滝広場集合写真、同歴史解説、同ワンポイントレッスン、龍泉寺集合写真、白滝山磨崖彫仏、同山頂歴史解説 (提供 可部山岳会 小林敏行)





2. 登山教室報告

(指導部長 森本 覚)

第12回 1.2年生 3/21(土)～22(日)

登山形態：テント泊山行

山城：比婆山

人数：18名（スタッフ含）

今回で今期も最終回となりました。1、2年合同で比婆山に行ってきました。ほぼ雪を踏めない山行となりましたが、2年生7名全員無事修了されました。2年間ではとても山の技術を伝えきれてないのですが、これからは自分にあった山を見つけて更に経験を積んでいって欲しいと思っています。修了されたみなさま、本当におめでとうございます。

『3月の山行を終えて』

(登山教室1年生 山根 厚介)

8月に登った比婆山、しんどかったなあという思い出が強かったです。今回は前回よりも荷物が多いからしんどいだろうなあと思っていましたが、実際歩いてみるとそうでもありませんでした。2日目は二日酔いでちょっとアレではありました。8月と比べると距離は短いですが、それを考慮しても楽に感じました。

また出雲鳥帽子山頂の岩ですが、8月に登った際は実におつかなびっくりだったのですが今回は余裕を持って登れました。個人的に練習しているボルダリングの成果だと思います。このように体力もついてきたし、苦手な高所も少しづつ克服できているのではないかと思いますので、これからも頑張ろうと思います。

その一方で今回も飲酒泥酔してしまいました。皆様



にご迷惑をおかけし申し訳ありません。特に堀田さんや佐々木さんには多大な迷惑をおかけしたと伝え聞いております。佐々木さんに支えてもらいながらトイレに行って何度かすっころんだけ憶はなんとなくあります。この場を借りてお詫び申し上げます。厳しい山行でこんなことをしたら本当に死んでしまうかもしれませんから、今後はあまり泥酔しないように気をつけたいと思います。

『2年間の登山教室を終えて』

（登山教室2年 吉川 智重子）

いよいよ最後の登山教室、ロープワークのテストもあると聞きドキドキしながら臨みました。1日目天気は快晴。コロナなどの影響もあり計画が中止になる等、なかなか山に登る機会がないまま、1月ぶりの登山！最初の2時間は体が慣れない中、登りも多くとてもきつかったです。ロープワークのテストは、いつもとは設定を変えたり時間をはかたりしてやりました。冷静に自分を落ち着けてなんとか時間内にできたのですが。クライミングや事故その他、瞬時にしかも色々な条件できなくては意味のない場合もある事を教わりました。

2日目少し曇り空。2年間での思い出は多く、特に比婆山は夏に1年生と行った時最後の下りで荷物を持ってもらう事になった嫌な思い出があり竜王からの下りは今までで一番慎重に降りました。

今まで私は、自分でやりたいと思った習い事をしてきましたが、この教室は友達に誘われたのがきっかけで入りました。自分でしたい事を選んでいる時には、無意識に自分にできそうなことばかりを選んできたのかもしれません。今回多くの技術を教えてもらいました。はつきり言うと辛い事の方が多かったです。その中でも学んで良かった…と思うのは『自分にはこんなにたくさんできない事があったんだ』ということが知れたことです。

これからは自分のできない所をいろんな形で学びながら、所属する山の会に帰って少しばかりですが伝えられることは伝えていけたら…と思っています。

最後になりましたが、一生懸命教えてくださったスタッフの皆さん、同期の皆さんありがとうございました

た。1年生の皆さん4月からも頑張ってください。



（写真提供 松本 正和）

3. 『幸せの国ブータン王国滞在記 もろもろ』④

（副会長 亀井 且博）

—その4—ブータンの歴史・政治・経済 ブータンの歴史

開発途上国と言われている国の多くは異民族による繰り返しの被征服による歴史のためか、あるいはその多くが個人の土地所有に固執しない遊牧民族の暮らす地であったためか、はたまた外界と遮断された小部族単位生活を主としたためか、その民族主義の台頭は遅く、近世までの長い間、歴史的にまとまった一つの地域や国としての体裁を持っていなかった国が多い中で、ブータンは古くからまとまった地域として、やがて国家としての歩みの歴史を持っている。

ブータンの歴史や外国との付き合い方、国家運営の方針等を知ると、ブータンという国の人たかさとい

うか、聰明さというか、先見の明があるというか、そのアイデンティティには何とももの凄いものを感じさせられる。

その歴史は、先ず、747年というから日本では京都・平安京に都が移る前の平城京の時代であるが、この年にはブータンで最も敬われており、どこの寺にも必ずその像があるニンマ派の開祖と言われているパドマ・サンババ（ブータンではグル・リンポチエと言われる。グルは聖人、リンポチエは転生仏）によって仏教が伝えられた。その後日本と同様、国内は莊園支配、豪族支配の群雄割拠の時代が長く続くが、1639年（日本では1603年に徳川家康が江戸幕府を開いた。）チベットでの宗派抗争に破れ、ブータンの地に亡命してきたガワン・ナムゲル（ブータンではシャブドゥンと呼ばれ建国の父として敬われている。これもまたどこの寺にでもその像がある。）によって全国が統一された。その際の統治体制として国内各有力者による国家評議会が設置された。（シャブドゥン体制と言われている。）判然とはしないが独裁政権ではなく、仏教指導者を頂点とした合議制統治国家と思われる。



シャブドゥン（ガワン・ナムゲル）

その後7回におよぶチベットの侵攻を受けるが、全て撃退している。ガワン・ナムゲルはチベット仏教カーギュ派の一派のドゥック派の高僧で、彼が統一した国だから「ドゥック・ユル」（ドゥック派の国）と呼ばれ、現在でもその呼称は変わっていない。国民の間では自国を「ドゥックパ（ドゥックは雷龍、パは人の意）の国」（雷龍の国）と呼んでいる。



シャブドゥンがチベット侵攻をくい止めるために最初に築いた要塞、シムトカ・ゾン（ティンプーの南）

その後、1864年（日本では明治元年が1868年）に当時インドを植民地化していたイギリスとの間でブータン南部インド平原のドゥアール地方の領有権争いのためブータン・イギリス戦争（ドゥアール戦争）が起こるが、ドゥアール地方をイギリスに割譲する代わりに毎年一定額の補償金を受領するという内容のシンチュラ講和条約を締結する。この件を見ても現在まで続くブータンのしたたかさを伺い知ることができる。状況から考えて当時の超大国のイギリスとの戦いは絶対的に不利であったろうが、それでも一方的な敗北ではなく、ただでは置かないのだ。

その頃のブータンの政治形態は、僧侶の代表者である仏法王と、俗人の代表者である執政王による二頭体制であった。しかし1885年に内乱が勃発して以来、国内が不安定になったことから、1907年に仏法王を兼ねていた執政王が退き、代わって現在の王室の先祖である東部トンサ地方の有力な領主であったウゲン・ワンチュクが世襲の王位に選ばれ、初代ブータン国王となった。一部地域の有力な領主ではあったのだろうが、武力で他を制圧して国王となったのではなく、選ばれて国王になったと言うのは実にユニークである。

長い間鎖国状態を続け、絶対君主制であったブータンの近代的な民主国家としての歩みはかなり遅く、第2次世界大戦からしばらく経ってからであり、1953年に第3代国王が国民議会を設置し、1971年に国連に加盟した。実質的にはそれまで鎖国状態であった。2003年には南部インド国境地帯の反インドゲリラを掃討

するという近代的な戦争も経験し（第4代国王時代）、2008年に王政から議会制民主主義を基本とした立憲君主制国家に移行した（現国王時代）。こうしたブータンの民主化の過程で最もユニークなのは、これら全てが外圧や国民からの強い要求ではなく、絶対権力者であった王室の主導によって行われたことである。自分の権力を自分で放棄してまで民主化することで、ブータンという国の、またブータン国民の将来があると判断されたのである。一旦権力を持つと、それにしがみつき、またさらに強めようとするのが人間で、指導者と言われる者の常である。いつの時代でもそうであるように、現在でも世界的に見て先進国、開発途上国を問わず、多くの指導者がなりふり構わずこの独裁のために策を弄している。時には自分の独裁体制を築くために憲法を改正してまでも、である。我が国の近辺にもそんな国が散見される。そんな中でブータンの王室はまさに正反対の事を指導した。これは本当に驚くべき凄いことではないだろうか。聰明な王室という他ない。



4代国王と現国王（5代）と王妃と皇太子

ブータンの政治

ブータンの政治体制は立憲君主制（日本と同じ）で、議会は国民議会（下院）と国家評議会（上院）の2院制である。国民議会は定員47議席で、普通選挙で単純小選挙区制により選出される議員で構成される。一方の国家評議会は、国内20ゾンカク（県）から各ゾンカク1人ずつ普選選挙で選出される20人と、国王が任命する有識者5人の計25人で構成される。両院とも議員の任期は5年だが、国民議会は解散の可能性

もある。

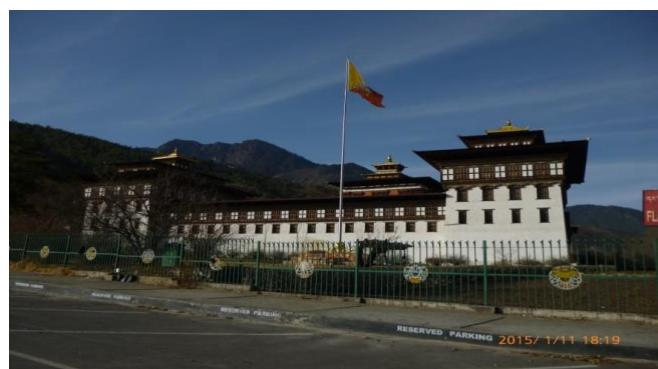
行政は議員内閣制（これも日本と同じ）で現在、農林省、保健省、教育省、通信情報省、公共事業省、財務省、内務文化省、貿易産業省、労働省、外務省の10省に各種委員会等があり、内閣総理大臣が統括している。地方行政としては全国を20のゾンカク（日本の県に相当する。）に分け、それぞれに日本と同様に、ドゥンカク（郡）とゲオク（村）をおいている。政治体制は日本と似通っているが、特徴的なのは国会が国王不信任決議の権限を持ち、国王65歳定年制が採用されていることである。



ブータンのゾンカク（県）の地図



ブータン王国の国會議事堂



ブータン王国中央政府庁舎（タシチョ・ゾン）

ブータンの経済

ブータンの国家予算は2014年時点で約400億円というデータがある。廿日市市の年間予算が一般会計で約400億円だからほぼ同じくらいである。国家の歳入は27%が国際援助（2014年時点）で、その他には税収と売電収入が大きなウェートを占めている。主要援助国はインド、日本、オーストラリア等で、国際機関（国連機関、世界銀行、アジア開発銀行）からの援助割合が多い。

ブータンは国際援助についての国の考え方が非常にユニークであり、またしたかさを感じさせる。それは「援助を受け入れるかどうかは私たちが決める。」というものである。多額の援助をエサに、国の方針や運営にまで関与してくるような国の援助金は受け取らない、というのがブータンの考え方で、“武士は食わねど高楊枝”、ではないけれど、ブータンのアイデンティティの凄さを感じる。

1人当たり名目GDPは2015年時点で2,591US\$で、日本の32,479US\$に比べると10分の1以下である。経済面のみ考えると非常に貧しい国である。

主要な産業は農業（米、麦、りんご、じゃがいも他）で、その他には林業、電力、セメント産業である。多様な気候帯を利用して温帯作物から熱帯作物までいろいろな果樹、作物を作り、近隣のインド、バングラデシュ等に輸出している。また、ヒマラヤの豊富な水と急流を利用して水力発電が盛んで、発電した電力はインドに売電している。ブータンでは川が急流のため発電用の大きなダムは必要ない。流れが狭くなった場所の側壁にトンネルを掘れば自動的にそこに水が流れ込み、少し下流に下るとすぐにかなりの落差を確保できるからである。国内には多くの水力発電所があり、現在でも各所に新設工事中である。

主要貿易品目の輸出は電力、鉄、セメント、農産物（りんご、みかん、じゃがいも等）等で、輸入は石油製品（軽油、ガソリン、アスファルト）、金属製品、自動車、電化製品、土木機械等である。主要貿易相手国はインド、バングラデシュ、日本で、輸出はインド（85.2%）、バングラデシュ（7.9%）、オランダ（1.9%）、アメリカ（1.3%）、輸入はインド（78.9%）、フランス（5.2%）、日本（2.2%）、シンガポール（2.1%）となって

いる。年間の輸入額は約10億US\$、輸出額は4億4千万US\$（輸出総額の約30%がインドへの電力の輸出）で完全な輸入超過国である。

「ダショー・西岡」

ブータンを語るには「ダショー西岡」を外す訳にはいかない。ブータンでダショー西岡と呼ばれている西岡京治（1933～1992年）さんは、1964年、海外技術協力事業団（現JICA）のコロンボ計画によって初めてブータンに派遣された日本人で、28年間ブータンで農業の専門家として活動されて、59歳の若さでブータン国内において逝去された。ブータン農業の父と呼ばれ、コメの品種改良と収量の増産、換金作物の育成、水田の区画整理、荒地の開墾、農業の機械化等ブータン農業全般の発展に尽くされ、今のブータンの農業は西岡さんの努力が無ければあり得なかつたであろうと言われている。その功績により、1980年に国王から民間人に贈られる最高の爵位である「ダショー」を授かり、唯一にして史上初の外国人受爵者となられた。そして逝去時にはブータンで国葬が行われた。今でも西岡さんの功績はブータン国内で語り継がれていて、日本人だと知ると「ダショー西岡を知っているか？」とよく聞かれる。以前は学校の教科書にもダショー西岡の功績が載っていたと聞く。西岡さんが住まっていたパロの小高い丘の上には、供養のため西岡チョルテンが建てられている。ちなみに、奥様の西岡里子さんはご健在で、現在、神戸にお住まいである。



西岡チョルテン



西岡里子さん（右の婦人）

次回一その5一はブータンと GNH (Gross National Happiness) について。

4. 第28回比婆山国際スカイランの中止について

（事務局長 西部）

国内外での新型コロナウィルスの感染拡大を受け、5/31に予定していた第28回比婆山国際スカイラン大会を中止するに至った経緯を説明しておきます。

この問題を最初に協議したのは、3/4の第6回実行委員会で、協議の結果、連盟ホームページの「最新ニュース」に「第28回比婆山国際スカイラン（5/31）の準備状況について」として次の文面を掲載しました。

『新型コロナウィルスの感染拡大を受け、全国各地の様々なイベントに関して中止等の措置が取られているところですが、当連盟が5月31日に実施する第28回比婆山国際スカイラン（申込期限は4/17）については、予定通り開催できるよう、現在、準備を進めています。

なお、準備状況については、このページで、定期的に情報提供していきます。次のお知らせは、3月20日頃と、4月3日頃を予定しています。

2020年3月5日

（一社）広島県山岳・スポーツクライミング連盟
第28回比婆山国際スカイラン実行委員会』

その後、3/20の三役会議での協議を受け、ホームペ

ージに次の文面を掲載しました。

『新型コロナウィルスの感染拡大を受け、みなさまには、比婆山国際スカイラン（申込期限 4月17日）の開催については、ご心配をおかけしております。

現在、予定どおり開催できるよう、準備を進めています。

昨日（3月19日）、「国の専門家会議」から提言が発表されました。この提言に対しては、大会が安全で円滑に開催できるよう、現在、実務的な検討を行っています。

なお、準備状況については、このページで、定期的に情報提供していきます。次のお知らせは、4月3日頃を予定しています。

2020年3月20日

（一社）広島県山岳・スポーツクライミング連盟
第28回比婆山国際スカイラン実行委員会』

その後、4/1の第7回実行委員会で中止の決定がなされ、4/1の晩に事務局から各加盟団体・理事・実行委員に「第28回比婆山国際スカイラン大会の中止について」（下の文面）のお知らせをメール配信し、4/2ホームページにも「【第28回比婆山国際スカイラン大会】中止のお知らせ」を掲載したところです。

『今回の比婆山国際スカイラン大会については、新型コロナウィルスの感染拡大防止を図る観点から、開催を中止することとしました。これは、スカイラン実行委員会、運営会議での議論を経て、三役（会長、副会長、理事長）で最終的に決定したものです。

スカイランは屋外中心のイベントであることから、開催を模索してきましたが、体育館内での受付や着替え、特に雨天時の待機で選手、役員が密集した場合の感染防止対策が困難であることから、「国の専門者会議」の提言（3月19日）に照らし、中止の判断に至ったものです。毎年、大会の開催にご協力、ご尽力いただいているみなさまには、誠に心苦しい限りですが、何卒ご理解いただきますよう、お願い申し上げます。

なお、近日中に、次のお知らせ文をホームページに掲載し、参加者にお知らせする予定です。

【第28回比婆山国際スカイラン大会】中止のお知らせ

令和2年5月31日（日）に開催を予定しておりました「第28回比婆山国際スカイラン大会」につきましては、日本国内において新型コロナウィルスの感染が拡大する中、大会に参加される皆様の安全、安心を第一に考えた結果、誠に残念ではございますが、開催を中止することに決定いたしました。

今回、「比婆山国際スカイラン大会」にエントリーいただきましたランナーの皆様をはじめ、大会を応援していただいております多くの関係者の皆様におかれましては、何卒ご理解をいただきますようお願い申し上げます。

なお、払い込み済みの参加料については、規定に従い主催者にて判断した結果、返金にかかる経費を差し引いた金額を、現金書留で返金させていただきます。送付予定については、ハガキにて連絡いたしますのでご了承ください。

第28回比婆山国際スカイラン大会事務局』

5. 岳連短信

1. 寄贈御礼

広島やまびこ会『やまびこ』No.767（4月号）

三原山の会『筆影』No.481（4月号）

福山山岳会『会報』R2.4月号

広島山岳会『山嶺』第856号（R2.3月）

2. 4~5月の行事案内

（集合時間・場所等の詳細は当連盟ホームページの「岳連カレンダー」のページを開き各行事をクリックすると確認できます。不明のものについては事務局にお尋ねください。）なお、新型コロナウィルスの感染拡大のため中止または延期になる可能性もあります。定時総会は予定通り行われますが、総会終了後の懇親会は中止になりました。

4/26（日）岳連例会山行①（船通山）

4/29（水祝）国体S C 競技県選手選考会（C E R O）

5/9（土）定時総会（ホテルチューリッヒ東方2001）

5/16（土）岳連例会山行②（那岐山）

3. 訃報

本連盟理事の岩城正人様（67歳）が3月27日に逝去され、葬儀は30日に家族葬で行われました。連盟から山田会長・永津理事・マツダ親和会山岳部会員が参列するとともに、会長名で弔電を打ちました。岩城様のご冥福をお祈りします。

以下の写真と俳句は、たわし（豊田和司 理事長）さんより



雨あがりうれひたなびく花の山



散りてこそ春をまとはん花吹雪

編集部より

○この会報は、皆さんの提出原稿を編集して発行しています。岳連行事・山の情報・行事参加の感想など気軽に寄せください。寄稿の場合は所属、役職を記入下さい。編集の都合で一部手直しがあります。ご了承ください。

○会員団体で会報発行されたら岳連事務局まで恵送下さい。隨時紹介します。

○この会報はメール配信しています。配信ご希望の方は岳連事務局までメールアドレスをお知らせ下さい。